学苑・近代文化研究所紀要　第八八七号（一）～（四）（二〇一四・九）

〔資　料〕

# 人見東明自筆短冊二種

## ――影印・翻刻・解題――

齋藤　彰

Two Variables of *Tanka* Strips by Tomei Hitomi: Their Images, Reprints, and a Commentary

Akira Saito

**Abstract**

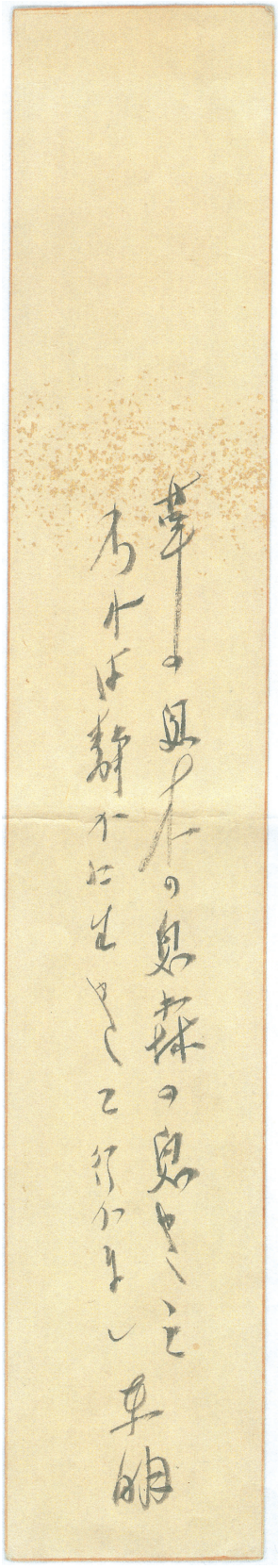
Two extant long strips of paper, A and B, each of which bear a similar *tanka* poem by Tomei Hitomi (who founded Showa Women's University in 1920), are introduced. Research into the poet's background, analogous expressions found in his other works published during the Meiji and Taisho Periods, handwriting analyses of the two strips, and the name of a lecture course stamped on the reverse side of strip A, reveal that the verse written on strip A was created in 1916.

The author notes a vital distinction between the two verses. In A, Hitomi uses *ware-wa* (I myself). He uses *kokoro* (mind) in B. The author surmises that the "*kokoro*" version was written a few years later than "*ware-wa*" version, and speculates that the poet's initial exuberant spirit has calmed down, and that in shifting to *kokoro* he is emphasizing the loneliness he then felt.

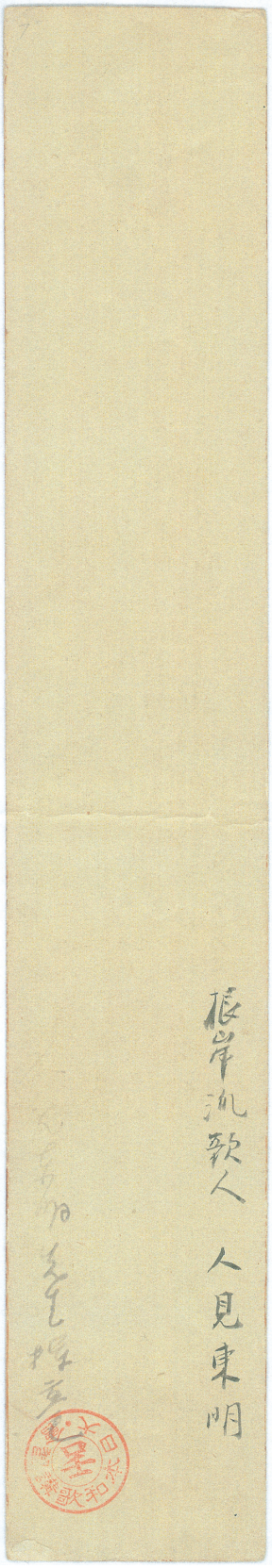
*Key words: autograph* tanka *poem* (直筆短歌), *Tomei Hitomi* (人見東明), *differences of the text* (本文異同)

影　印

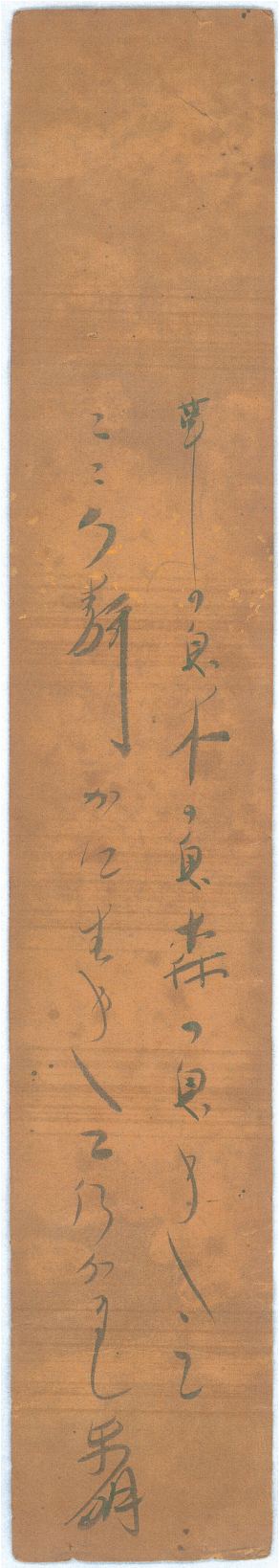
短冊A（表）



短冊A（裏）



短冊B（表）



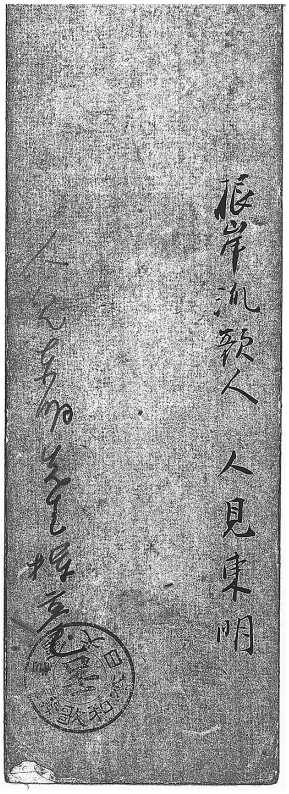
## 翻刻

短冊A（表）　草の息木の息森の息きゝて
われは静かに生きて行かまし　東明　（毛筆・自筆）

短冊A（裏）　根岸派歌人　人見東明　（毛筆・別筆）
人見東明先生揮毫　（万年筆）
呈　大日本和歌講習會　（丸型朱印）

短冊B（表）　草の息木の息森の息きゝて
こころ静かに生きて行かまし　東明　（毛筆・自筆）

短冊A（裏）（下部）



## 解　題

短冊Aは、平井聖昭和女子大学前学長蔵・昭和女子大学光葉同窓会（東明記念室）寄託人見東明自筆短冊である。縦三六・二糎、横六・一糎。鳥の子紙。金砂子。金茶の縁。歌題は無記で上部空白。一首二行書。自筆。下中央に「東明」の自筆署名。東明記念室陳列棚左上に赤房つきの短冊掛けに掛けて展示されている。

昭和女子大学近代文学研究室『創立八十周年記念出版近代文学研究叢書別巻　人見東明』（昭和女子大学近代文化研究所　平成一二年一〇月七日）の、「大日本和歌講習会」の項目（執筆　佐々木満子。特に一九一頁～一九六頁）を手掛かりに検証すると、同会は人見東明主催の歌学研究会が発展したものである。新学期開講と会員募集の一面広告が「科学と文芸」大正五年八月号、九月号（大正五年八月一日、同年九月一日、同誌は同年一一月号より「近代思潮」と改題）、更に「近代思潮」大正五年一一月号、大正六年一月号（大正五年一一月一日、大正六年一月一日）の四回、裏表紙もしくは巻末に確認できる。和歌概論他十七科目の講習、会員の詩歌の無料添削、十か月卒業を謳い、詩歌学の組織的・基礎的研究を意図し、「新入会者諸氏」には「名家揮毫の短冊第一流画家揮毫の半折及び万年筆を無料にて進呈す」とある。

短冊A裏面の「人見東明先生揮毫」（万年筆）・「呈　大日本和歌講習會」（丸型朱印）は、同会が新入会員に進呈した短冊であることを示すものである。「大日本和歌講習会」の講義内容は、高橋良雄「文壇活動晩期の人見東明　（二）（三）」（「学苑」七〇七号、七一四号　平成一一年三月一日、同年一一月一日）に詳しい。講義テキストは「最新和歌講義録」（編集兼発行者村上緑（人見東明夫人）　発行所大日本和歌講習会　第一号大正五年九月二八日、第二号同年一〇月三〇日、二号と三号の再版大正六年六月一〇日、六号（再版）同年九月一日）として継続刊行された。

人見東明の短歌は現在、八六首が確認できる。（前記『近代文学研究叢書別巻』「著作年表」に追加された一九首の初出を確認し[注1]、これと『人見東明全集』第二巻、第三巻（昭和女子大学光葉同窓会　昭和五五年四月一日、同年五月一日）収載歌六七首を照合して算出。）

初例は「白百合」（明治三七年四月一日）二〇四頁〜五頁に載る「純文社詩稿」と題する三首「つめたくばつめたからめや石に似て永久（とは）なる闇の殿内（とぬち）にいねむ」「墨ひきてさきて悶えのけぬべきやもゆる心の影とめしうた」「御旨なに、と思へども弱き子の涙ながらに神おろがみし」と、「明星」辰年第四号（明治三七年四月一日）七八、八〇頁に載る「うたた寝」と題する二首「もぬけてはまよひしものかわが霊のしぬび泣する闇のかくり戸」「墨ひきて裂きて悶は消（け）ぬべきかかつて心の影とめし歌」の五首であり、筆名はそれぞれ「東村生」「人見東村」である。明治三七年の一年間に「白百合」「明星」「文庫」「新潮」「新公論」の各誌に四四首が載り、「劇と詩」第一二号（明治四四年九月一日）五一頁に載った「水盤」と題する三首を合せて明治期の作歌は四七首が知られる。

高橋良雄は「人見東明と和歌」（「学苑」六二九号　平成四年三月一日、特に一〇頁〜一二頁）に、大正期の最初の作として「常磐木」（大正五年八月一日）に載った「席上吟」と題する四首を紹介している。

席上吟

なにとしも謂れ知らなく太息してわれとわが身の淋しかりけり
あけぼのゝ光しらぐ〳〵しのび入る山上の池の静かなる朝
草の息木の息森の息きゝてわれは静かに生きてゆかまし
とぼ〳〵と歩めば朝となりにけりさすらひの身のながきことかな

この第三首と短冊Aが近似する。第五句に「生きて行かまし」と「生きてゆかまし」の表記の異同がある。短冊Aの「息」と第一首の「太息」、「われ」と第一首の「われ」、「静か」と第二首の「静か」などの詞は連作を思わせる。因みに、「文学界」第一巻第二号（大正六年六月一日）冒頭に載る「笛の音」と題する七首の「かの月の光しづ〳〵訪づるる夜ごろの森に入りてゆかまし」（第一首）、「いとほのに流るる笛の音をききて人の恋しくなりにける春」（第四首）、「更くる夜の街に蛙の声ききてふるさと恋しくなりにけるかな」（第五首）には近似する表現がある。なお、短冊A裏面の「根岸派歌人　人見東明」（毛筆・別筆）は、「大日本和歌講習会」の講義「歌聖評伝」を担当した島木赤彦、「万葉集短歌講義」を担当した窪田空穂などと親交があった人見東明を万葉調の根岸派歌人とみたものであろうが、繊細かつ暗示的で寂寥感を漂わせる歌風は根岸派とは異なる。

短冊Bは、昭和女子大学光葉同窓会（東明記念室）蔵で、短冊Aとは別種の人見東明自筆短冊である。縦三五・五糎、横六・〇糎。鳥の子紙。金砂子。五段の茶色横筋。上部にやや空白少なく、歌題は無記。一首二行書。自筆。下左に「東明」の自筆署名。裏面は白紙。東明記念室陳列棚に額装（縦五三糎、横一三・七糎）で展示されている。この複製が近代文化研究所編集室入り口正面に掛け軸で飾ってある。

短冊Bは、短冊Aとの書体の酷似から人見東明自筆と認める。短冊Aの第四句「われは静かに」と短冊Bの第四句「こころ静かに」は異同する。気負いが感ぜられる短冊Aに対して、短冊Bは淡々とした制御心が窺われ

る。更に、自在に「き」・「静」・「き」の三字が大きく、閑寂な心境を強調している。短冊の書式の違い・歌句の異同から、短冊Bは、短冊Aより数年後の成立であろうと考えられる。すなわち、大正五年八月一日の短冊A表に載る短歌の成立後、「大日本和歌講習会」活動期を経て、大正九年、日本女子高等学院を設立した頃の作と推定する。「席上吟」の第二首や第四首の詠歌内容と、日本女子高等学院の「開講の詞」（大正九年九月十日）の「夜が明けようとしてゐる」状況との関連性を認めるからである。なお、短冊Bと近似する「草の息木の息森の息きゝて心静かに生きてゆかまし」が、「随想」と題し『人見東明全集』第三巻三七九頁に載る。

注1　「常磐木」（大正五年八月一日）のみ、再掲資料に拠った。

**参照資料**


「白百合」明治三七年四月一日
「明星」明治三七年四月一日
「文庫」明治三七年六月一五日
「新公論」明治三七年九月一五日、同年一〇月一五日
「劇と詩」明治四四年九月一日
「科学と文芸」大正五年八月号、九月号（大正五年八月一日、同年九月一日）広告
「近代思潮」大正五年一一月号、大正六年一月号（大正五年一一月一日、大正六年一月一日）広告
「文学界」大正六年六月一日
「抒情文学」大正九年九月一日
『人見東明全集』第二巻　昭和女子大学光葉同窓会　昭和五五年四月一日
『人見東明全集』第三巻　昭和女子大学光葉同窓会　昭和五五年五月一日
「人見東明と和歌」高橋良雄「学苑」六二九号　平成四年三月一日
「文壇活動晩期の人見東明（一）」高橋良雄「学苑」七〇六号　平成一一年二月一日
「文壇活動晩期の人見東明（二）」高橋良雄「学苑」七〇七号　平成一一年三月一日
「文壇活動晩期の人見東明（三）」高橋良雄「学苑」七一四号　平成一一年一一月一日



『近代文学研究叢書　別巻　人見東明』（創立八十周年記念出版）　昭和女子大学近代文学研究室　昭和女子大学近代文化研究所　平成一二年一〇月七日


附記


資料調査に際してご配慮いただき、影印・翻刻を許可してくださった昭和女子大学前学長平井聖先生・昭和女子大学光葉同窓会長横井千香子氏に深謝申し上げる。また、資料調査に際してご配慮いただいた昭和女子大学名誉教授杉本邦子先生、昭和女子大学前光葉同窓会長安西美津子氏に深謝申し上げる。



（さいとう　あきら　日本語日本文学科教授・近代文化研究所所長）